

# 中核市に関する庁内検討会 第7回

令和6年8月2日(金)

政策推進部 行政マネジメント課

# 目次

- 1 庁内検討の経過
- 2 勉強会で見えてきた課題と展望
- 3 その他

# これまでの調査・検討の流れ

## 【R5年度】



## 【R6年度】



# 職員勉強会の目的

## これまでの取組

- ・ 政策推進部において、先進事例の情報収集
- ・ 庁内検討会を通して全庁へ情報を共有



## 今回の取組

- ・ 移譲事務の多くを占める保健所業務に関して、先進自治体を参考に研究を深める。
- ・ 保健所設置の前後を熟知した先進自治体の職員（保健師）の話を通して、担当レベルの職員の認識を高める。

# 中核市保健師業務に関する職員勉強会

- ▶ 日 時：令和6年7月4日
- ▶ 参加者：延べ60名（うち保健師44名）
- ▶ 講 師：豊中市（大阪府）及び福島市（福島県）の  
統括保健師
- ▶ テーマ：主な中核市保健所業務  
移行の効果、職員意識の変化  
健康危機対応 など



# ①中核市移行の効果

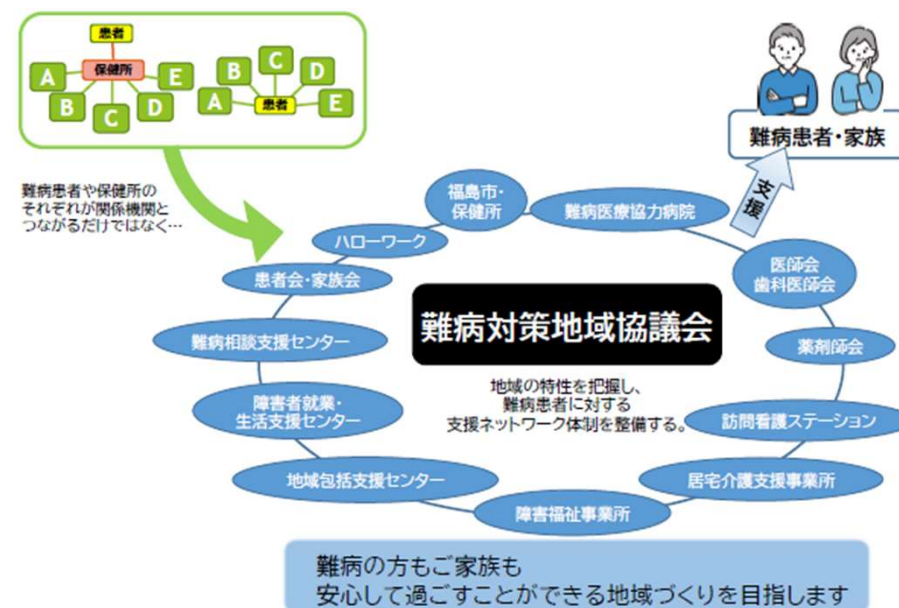
## 事務メニューが増えたことによる効果

○「難病」や「小児慢性特定疾病」などへの関与

- ・ 難病サポーター養成講座の開催
- ・ 難病対策地域協議会の設置
- ・ 災害時個別支援計画の策定  
(危機管理室、消防、関係課との連携)



難病の方とその家族を支える地域づくり！



福島市第1回難病対策地域協議会資料

## ②健康危機対応

### 【感染症対応】

- ・ 患者数や入院者数など感染状況を把握できることで、**流行の特徴が分かり、市民に直接、知らせることができた。**
- ・ 迅速な情報の入手・整理をもとに、各施設の休園・休校の協力依頼
- ・ 消防局や医療機関との連携による、円滑な患者搬送

### 【災害対応】

- ・ 三師会、保健所、市立病院等で「災害時対策作業部会」を設置
  - ➡ 医療体制や有事の指揮命令系統を構築
- ・ 医療関係機関と「医療本部・応急救護所設置運営実働訓練」を実施



## ③職員の変化

- ・市の保健衛生分野をすべて管轄しているという意識が高まった。
  - ➡ 保健師としての責任感の高まり
- ・都道府県保健所で行われていた業務を実施することで、力量UP！
- ・保健衛生行政を都道府県と分けることがなくなり、すべての取組を同じ方針(方向性)で進めていける。
- ・仕事をスピーディーに進めていける！
  - ➡ 都道府県保健所との調整や決定待ちが必要なくなる。

# 勉強会に参加した職員の感想

- ◎中核市の保健師業務のイメージができた
- ◎専門職が増えると相談、連携が容易になり保健師が気づかない視点を参考にでき、市の強みになる。
- ◎保健所を持つことで、地域の実態をより把握できる。また、日頃より住民と直接関わっている基礎自治体だからこそ気づき得たことを取り組みに反映できる。
- ◎危機管理対策、感染症対策を充実させることができ、市民にとってより安心安全なまちにできるのではないかと感じた。
- ◎中核市保健師として新たな分野の今まで経験のない業務を実施することに不安がある、学び直しが必要になる。
- ◎移行する日から移譲業務を完璧に遂行しなければならない重圧がある。

# 目次

- ① 庁内検討の経過
- ② 勉強会で見えてきた課題と展望
- ③ その他

# 勉強会で見えてきた課題

## 福島市における職員研修(保健所業務関係)

第1回

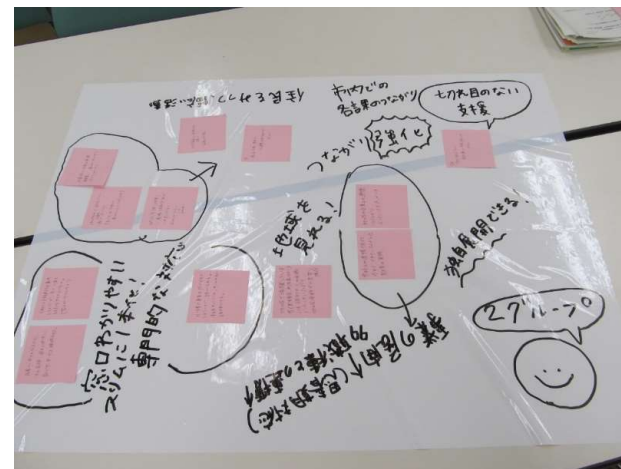
- ・保健所設置方針の説明
- ・県保健所で研修中の保健師からの報告

第2回

- ・グループワークなど

第3回

- ・島根県益田保健所長の講演



- ・複数回の研修を重ねる中で、少しずつ職員の意識改革を進めてきた。
- ・施策を大きな視野で考えることができるというプラスのマインドへ変化

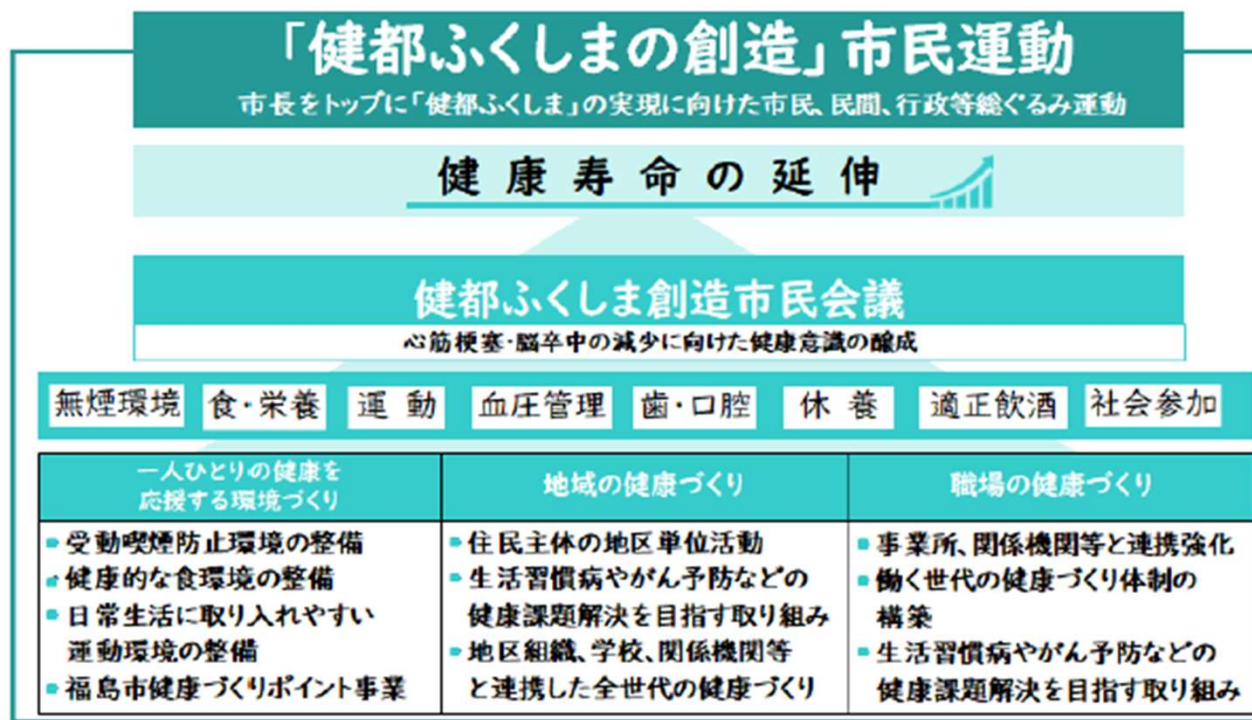
しなければならない



できるようになる

職員の意識を変えていくため、検討を幅広いものとするためにも、更なる勉強会など丁寧に進めていく必要がある。

# 勉強会で見えてきた展望①



出典：  
ふくしまし健康づくり  
プラン2024

保健所ができたことで、“地域をつくる”という意識が職員間で芽生え、住民主体の推進母体＝「健都ふくしま創造市民会議」をつくることができた。

“市民が主体の健康づくり”が一気に進展

# 勉強会で見えてきた展望①

組織体制を強化した市が様々な場面で市民の生活に関わっていくことで、健康で豊かな暮らしを実現

## 対人サービス

より専門的な知見

小児慢性乳児訪問  
小児慢性特定疾病  
の医療費助成

難病支援

感染症対策  
HIV, 結核

より専門的な知見

⇒ 中核市移行で増えるサービス

不妊治療  
妊産婦検診

乳児全戸訪問  
予防接種

乳幼児健診  
医療費助成

移行支援（幼保小中連携）  
就学前健診

生活習慣病予防、がん検診、保健指導

妊娠前

妊娠期

出産

乳幼児期

学齢期

青年期

壮年期

高齢期

## 対物サービス

食品衛生、生活・環境衛生、廃棄物対策

# 勉強会で見えてきた展望②

とよなか  
**卒煙**  
プロジェクト

豊中市在住・在勤の方対象の  
アプリでの禁煙プログラム

豊中市に  
在住の方は  
自己負担額 **0円**  
(豊中市に在勤の方は、0.99万円)

禁煙日を、記念日に。

医師開発アプリ×オンライン指導×医薬品  
送料不要で無断なく届けられる卒業

豊中市アプリ「e-cure」を通じて指導員・医師のサポートによる禁煙指導が受け放題の「豊煙プロジェクト」  
を、おまかせ禁煙指導員のサポートが受け放題。

医師開発アプリ | e-cure | 禁煙指導員 | 指導員 | 指導員 | 指導員

お問い合わせ先  
TEL: 0120-932-0000  
E-MAIL: info@e-cure.jp

詳しくはwebサイトで掲載  
TEL: 0120-932-0000  
E-MAIL: info@e-cure.jp

secure@e-cure.jp | <https://www.e-cure.net/toyonaka>

## 豊中市

中核市として蓄積したデータを分析

死亡割合のうち、循環器疾患や糖尿病が約3割  
動脈硬化など血管の変化が健康寿命に関係

専門職の  
知見

血管プロジェクト～禁煙支援事業～



計792人が参加

337人が1年間の禁煙を継続＝卒煙を達成

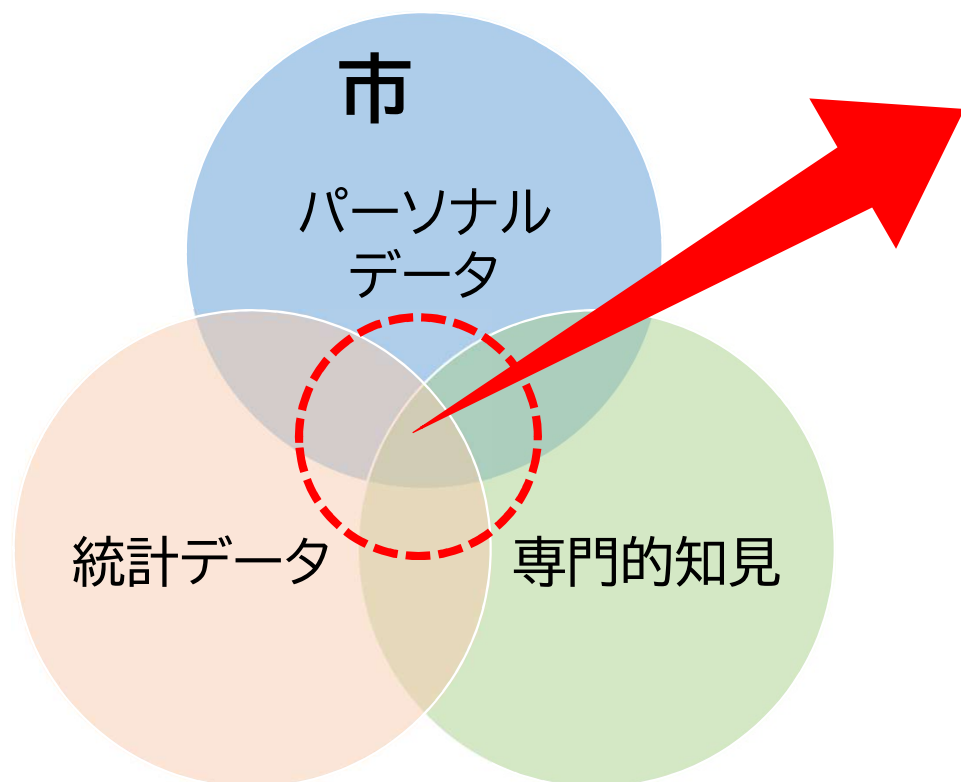


医療費削減効果：2億5千万円（試算）

出典：(株)CureApp作成資料

# 勉強会で見えてきた展望②

<データと知見の蓄積>



## データに基づく施策立案

- 人口動態調査など統計データが増えることで、佐賀市の保有するビックデータが拡大
- 専門的知見を活かしながら、精度を上げて現状を分析できる。

10年後、20年後の佐賀市を見据えた  
**独自のまちづくり**の展開